

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 7 月 9 日

【評価実施概要】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人社団 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜市岩田3丁目277番地1号 (電話) 058-241-5250		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年7月7日	評価確定日	平成20年8月12日

【情報提供票より】 (平成 20 年 6 月 20 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 19 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 13 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	23,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (1年未満)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 6 月 20 日 現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護 1	4 名	要介護 2	6 名
要介護 3	5 名	要介護 4	2 名
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名
年齢	平均 82.2 歳	最低 68 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団稲葉会芥見診療所、桐山歯科医院、サワダケアセンター
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは国道に近く、喫茶店・飲食店・スーパー・薬局等にも行きやすい場所にある。2ユニットは渡り廊下で結ばれ、それぞれにトイレが4ヶ所あるなど利用者の今後を見通して設計されている。理念の柱は「入居者本位」であり、様々な場面で、管理者と職員は黒子に徹しようとの思いが感じられ、職員のかまめな対応により自立度が高くなった利用者も増えた。職員の休憩場所が確保されているせいか離職率も低く、管理者と職員も気軽に意見を言える風通しの良さがある。病院が母体法人であることから、いつでも看護師や医師に指示を受ける体制があり、本人と家族の安心感を得ている。また、ホーム支援の延長線上に終末期があること認識し、必要時には何度も話し合いを重ね、本人と家族の意向に沿った支援を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の改善課題は、運営推進会議の取り組み・家族への報告・職員の異動の配慮などがあったが、職員間で話し合いを重ね、この1年間でできることから取り組み、自主的な改善が行われていた。日々のケアと平行してゆっくと無理なく、確実な取り組みが進んでいる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は評価の意義を十分理解しており、職員にも気づきを導く作業として職員に自己評価を小項目ずつ渡し、意見を交換して共有したものを管理者がまとめあげた。職員は、この評価作業が加わったことで自ら発見した小さな気づきを改善課題として毎日の申し送りでも周知し、職員の意識向上にも繋がっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 前年度の運営推進会議は他ホームとの共催であったが、今年度より単独開催となっている。ほぼ2~3ヶ月に1度、地域代表や家族・職員も参加し、ホームの説明や年間行事案内などを通して地域との交流を徐々に進めている。外食後の開催の計画も進めており、多くの家族に参加を呼びかけている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームは、利用者と離れて暮らす家族の不安な心を大切に受け止め、小さなことでも伝えるこまめな連絡を行っている。そのせいか、家族は訪問時に気軽に意見や話を言える関係がホームとできている。毎月送るカラー刷りのホーム便りには、行事を楽しむ利用者の遠景の写真も載せ、家族の安心感につながる伝達に役かっている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の住民が頻繁にホームを訪れるほどの交流はまだないが、散歩中に花を貰ったり声をかけられたりと、地道であるが地域のホームとして徐々に溶け込んでいる。自治会の資源分別収集には利用者が職員と一緒に出かけたり、花アレンジメントのボランティアが訪問したりと、様々な形で交流も進んでいる。今後は保育所や学校との行き来など、市の行政に仲立ちを働きかけていく計画がある。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別にグループホーム主体の「入居者本位・笑顔・優しい心」を理念とし、利用者の生活を継続してもらうことを重視した理念となっている。	○	地域との関連性が重視されるようになって来ているので、基本理念に地域との関わりの文言を加え、地域密着を鮮明に打ち出されるよう期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	分かりやすい理念は、申し送りや職員会議で話すことにより職員に周知され、理念に沿った支援ができるよう、振り返りと確認を常に行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、資源分別回収は利用者と共に出しに行き、散歩の際には声をかけられたり花をもらうなど、徐々に地域に根付いたホームへの取り組みがされている。	○	地域に認知症を理解してもらう発信地として、また、保育園との交流・地域サロンの参加計画など、行政にパイプ役になってもらえるよう働きかけ、地域に根付いたホームを実現されることに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を行うことにより、ケアの確認と意識改善に繋がることから、小項目毎に職員が評価作業を行い、職員の気づきや意見を交換して管理者がまとめ上げた。前回の改善課題についてもできることから前向きに取り組む、さらなるレベルアップを目指している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、地域や家族代表の希望により日時を決めるためか行政の参加回数は少ないが、ホームの生活や状況を説明して認知症への理解を求めるなど、地域の応援体制も視野に入れ取り組んでいる。	○	家族が参加しやすい配慮となっている為、行政の担当者も参加できる日にちの工夫、また行政の前向きな参加も促し、ホームと行政が共に手を取り合い、地域との交流や啓発の場となるよう期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	相談や困りごとを通し、行政には意見を求めたり、質問を気軽に言える関係性ができている。	○	行政に対しては、あらゆる場面展開での協力をホーム側から求め、地域高齢者の課題解決に向けた協働の取り組みに期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問が多く、その際に利用者の日常の様子をきめ細かく知らせている。毎月カラー刷りのホーム便りを請求書・金銭出納帳と共に送り、電話報告の内容も個別ノートに記載されている。家族アンケートでも報告提供に対しての不満の声はほとんどない。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある意見箱にはあまり入っていないものの、家族の要望や意見はホーム全体が言いやすい雰囲気にあるせいか、直接管理者に届くことが多い。その内容は申し送りで全職員に伝えて適切に対応し、サービスの改善に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動が利用者にとってダメージを与えることが理解されており、極力職員の異動は抑えられている。やむを得ず異動があった場合は、本人・家族に説明を行い引き継ぎもするよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員育成のため、研修の必要性を認識しており、勤務扱いとして研修に参加できるよう配慮している。その内容は介護会議・法人全体会議でも報告して共有し、職員の質の向上を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会の参加により人脈を繋ぎ、他ホームから空室の問い合わせもある。管理者は情報交換を互に行い、ホームの運営に反映させている。	○	主要職員のみならず、職員が交互に訪問研修で研鑽し合えるようなネットワーク作りの実践を期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービス利用から入居する場合も多い。体験入居も利用でき、入居前には本人・家族から聞き取りを十分行って、ホームへの入居がスムーズに出来るよう配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の思いや好みを重視し、畑の草抜き・野菜の収穫・花の水やりなどを通して、家事等と一緒に支援をしている。歩行困難な利用者が歩けるようになったり、会話を楽しめるようになった利用者を職員は見守って共に喜び合えるような支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者1人ひとりを職員が担当し、日々の様子や表情から気づきを拾い上げ、朝夕のミーティングで共有している。利用者の洗濯後の衣類を仕分けして、それぞれの居室に持っていってくれる利用者もおり、職員によるさりげない日々のケアの様子が感じられる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意向や希望に沿った介護計画が作成されている。また、2時間毎の個別記録・赤ペンの特記事項などにより、利用者の状態が細かく記載されており、本人の楽しみや生きがいも加えた介護計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは6ヶ月に1度であるが、状態変化に応じ随時に職員間で話し合い、介護計画に反映をさせている。排泄チェックも細かく行うことにより、排泄レベルが向上した利用者が多く、その報告に胸躍らせる家族の喜びが感じられる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体の医療法人による往診が毎週行われている。併設のデイサービスに通う利用者は日帰り温泉に行くような雰囲気を楽しみにしており気晴らしにもなっている。利用者や家族のニーズに応える柔軟な体制ができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の体調に合わせ医師が母体法人の病院から往診したり、提携の訪問歯科の往診、また、整形外科への通院は家族が行っている。職員が通院に同行する場合は勤務シフトを調整し、対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末に関しては入居時に説明を行い、家族の意向を聞いている。医療依存度が高くなった場合はホームからの転出を勧めているが、母体法人の病院からの看護師による応援などで極力応じるように配慮し、必要時には主治医や家族と随時慎重に相談して対応していく体制をとっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の取り扱いは入居時に家族と同意書を交わし、職員もその重要さを認識し様々な配慮がされている。その人その人の人生を大切に尊重し、利用者に合わせてゆっくりとさりげない声かけを行い、目立たず見守る姿勢を全職員が周知している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっておらず、その日の天候や利用者の体調に合わせた散歩や外出が柔軟に行われている。起床や就寝時間もその人に任せ、気に入ったテレビ番組を居室でゆっくりと楽しむ利用者もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1人ひとりの好きなことや能力に合わせ、食事作りやテーブル拭き・配膳・下膳に精を出す利用者が多い。月に1度は外食を行い、日々のメニューは利用者の希望を聞いて献立を作っている。誕生日のケーキは利用者が飾りつけをし、全員で祝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に2回の入浴を行っているが、広い浴槽でゆっくり入浴を楽しみたい利用者は、併設のデイサービスに通っている。日中浴が基本であるが、希望によっては夜間浴にも対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の得意なこと・好きなことを、ホームの日常の中で活かす支援が行われている。利用者が短冊を下げ、七夕の笹飾りを完成させたり、食事や行事開催などの準備も利用者が積極的に係わり生活の張り合いとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候や天気によって、柔軟に散歩や外出を行っている。コーヒー好きな利用者は近所の喫茶店のモーニングへ行くのも楽しみにしている。施錠されていない玄関から庭へ出て、ホッと一息つく利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を全職員が周知しており、利用者の自由な暮らしを見守りにより支援している。職員の日ごろのケアと支援によって落ち着いた利用者が多く、現在は無断で出て行く人はいない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害に対して認識を持ち、防火管理者が設置され、職員間で避難経路の確認などを行っている。住民の協力が得られるよう、今後運営推進会議でも働きかけを行う計画がある。緊急マニュアルは事故・感染・災害時など個々に細かく整備されている。	○	食料や飲料水の備蓄・また地域内での避難場所とその経路の確認も含め、必要かどうかを職員間で再度話し合い、もしもの際に備えられたい。また、夜間の災害も想定し、住民の協力を得られるように、さらにホームからの働きかけを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は個人記録に記載され、利用者1人ひとりの体調が維持されるよう支援している。また、利用者の状態に応じ、同じ献立にトロミを付けたり刻みにして提供するなど工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから居室への廊下には利用者の背丈に合わせた高さの手すりが付けられ、洗面所も車椅子が入るようにと設計されている。トイレはユニットごとに4ヶ所設置され、利用者が自由に過ごせて自分のペースで生活できるよう工夫してある。昼食後は居室で過ごし、窓際のソファでくつろいだりと思いに思いにホームの1日を楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームから無償で貸与され、タンスやロッカーは本人が使い慣れたものが持ち込まれている。孫や家族の写真を飾ったり、息子が買ってきた木彫りの観音像がタンスの上に置いてあったりと、その人の生活歴が感じられる個性ある居室となっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。